

シリーズ

“キラリ企業”の現場から 第5回

当公社のさまざまな事業を活用しながら、一筋に経営に取り組む企業をご紹介します“キラリ企業の現場から”。第5回目は、転倒・転落事故を軽減する防滑機能や蓄光機能等を有する人工・人造石の新素材を開発、製造し、これまで国内外で600件あまりの特許・商標を出願している「株式会社アベイラス」をご紹介します。北米最大のショーである“Neocon World’s Trade Fair”において日本企業として初めて各賞を受賞するなど高く評価されている同社には、東京都知的財産総合センターの相談事業や外国特許出願助成金事業等のご利用をいただいております。

「私たち」は、人々に「役立つ」「価値ある」企業でありたい

株式会社アベイラス

人や地球に優しい事業展開を目指して

経済のグローバル化が進展する中、人工・人造石の新素材の開発製造業として国際的な企業活動を行っている同社の社名「アベイラス」は、英語のAVAIL（役立つ）と、US（私たち）を組み合わせ、さらにUSの“U”を“V”に変えてVALUE（価値）の意味も付加した造語である。タイトルにあるような経営理念どおり、「安心・安全」「バリアフリー」「防災」「ノンエネルギー・省エネルギー」「エコロジー」といったコンセプトに基づいた、人や地球に優しい製品作りを続けている。



〈明視下〉
「蓄光機能」と「防滑機能」を組み合わせせた階段



〈暗視下〉

同社の製品「アベイラス」は、天然石英石を基本骨材として、耐久性・耐候性に優れたアクリル系樹脂でバインドした表面硬度が極めて高い新素材である。一般のタイル、石材と比べると基本物性の優位性はもとより、転倒事故を防ぐための「防滑機能」、ブラックライトに反応して光る「蛍光機能」、さらには蛍光灯や太陽の光を吸収して、暗くなるとノンエネルギーで光る「蓄光機能」など様々な特殊機能を合わせ持つ。内外装の床や壁、階段のほかキッチンや浴室等で建築材として使用される以外に、光る機能を利用した看板、標識、避難誘導板など活用の際は広い。

こうした製品は、官公庁施設、空港ターミナルビルなどで採用されているほか、駅舎、テーマパーク、医療・教育施設、オフィス、一般住宅など様々な分野に納入実績がある。

また、避難誘導板は「アベイラス高輝度蓄光式避難誘導板」として消防庁登録認定機関（財）日本消防設備安全センターが定める避難設備（高輝度蓄光式誘導標識）としての厳しい認定基準に合格し、認定証および型式認定附属書の交付を受けている。

新たな試み『トレーサビリティ』

「トレーサビリティ」とは、Trace（追跡する）とAbility（できる）の合成語で、製品などの所在や履歴をさかのぼって確認できるシステムのこと。もともと、「トレーサビリティ」は工業製品などの品質管理システムのひとつだったが、この言葉を有名にしたのが、農林水産省が食の安全・安心を確保するために導入した「牛肉のトレーサビリティ」。現在は、食品のほか、物流、医療等幅広い業界で導入が図られている。

こうした中、同社においても新たな試みとして「アベイラス高輝度蓄光式避難誘導板」にはICタグシス



「アベイラス高輝度蓄光式避難誘導板」
平成18年度「省エネ大賞」省エネルギーセンター
会長賞受賞

テムを導入。建築・蓄光業界において初めてICタグを封入・装着することにより、製造履歴の管理などトレーサビリティを確実なものとしている。このようなトレーサビリティの構築が確かな製品作りと追跡調査の実現につながり、5年という長期保証を可能にしている。

中小企業が勝ち抜くための知財戦略とは

同社は、独自開発の生産技術と知的財産権等で防御を図ることにより、競合技術の出現リスクを最小化すべく万全を期している。

国際特許においても、既に16カ国で登録済みの基本特許のほか、更なる基本特許と周辺特許、応用特許、商標登録等をアメリカをはじめ世界20数カ国へ申請済み（一部登録済み）であり、その特許戦略は、大手企業に優るとも劣らない。

しかし、出願、登録した600件もの特許・商標を管理しなければならない同社には、専門部隊となる「知的財産部門」はない。日々経過をウォッチしながら管理・サポートしていくのは、主に総務と兼務の4名の女性だけである。

担当する女性総務部長は、「現在、特許マップに沿って審査請求や各国移行のタイミングを計るなど効率的なマネジメントを行っている。そのためには、専門ではないからこそ、開発担当者や弁理士と積極的に情報交換をすることが重要であり、弁理士に対しても、手続きの依頼をするだけでなく、相手の意見に耳を傾ける姿勢を保ちつつ、疑問に思ったことは遠慮なく訊ねるなどコミュニケーション力を高めることが必要である」と話す。

よく知的財産部門担当者に要求される資質として、「ねばり強さ」「柔軟性」「事実確認ができること」などが挙げられるが、部長をはじめ女性4人はもちろん資質十分である。

いつも「わからないことがあったら、聞く・調べる・勉強する」を基本スタンスとし、Web検索はもとより、当センターへの知的財産管理等に関する来社相談、出張セミナー受講のほか特許庁へも気軽に足を運んで疑問を解決している同社の、このフットワークの良さには感心するばかりである。



看板や外壁などにアベイルス製品を使用した本社工場

「攻め」と「守り」を経営の両輪として

業績は順調で、世界を視野に入れた積極的な事業展開を図っている同社だが、膨大な数の特許出願をする一方で、外部に出さない方がよいノウハウは一切表に出さないという機密情報管理にも力を入れている。

また、社内においても、技術情報、ノウハウ等のセキュリティには厳密な体制を敷いている。

工場見学をする際には、事前に機密保持契約を交わし、カメラや携帯電話の持ち込みも禁止としているとのこと。製法・生産等のあらゆる面のノウハウの蓄積を図っており、そのノウハウの全ては社内ですえも知る人は少ないという徹底ぶりである。

今後は、自社の事業を守り、市場性をより確保するため、権利侵害に対するプロテクトを図るなど、「模倣品対策」なども含め外にも目を向けていきたいとのことである。

明確なビジョンと戦略に基づき、大胆かつ堅実な経営を続ける同社は、これからも旺盛なチャレンジ精神とフレキシビリティ（柔軟性）を活かしながら、さらに大きく発展していくことだろう。今後の展開がとても楽しみな企業である。

（東京都知的財産総合センター 大坪美枝子）

（注）東京都知的財産総合センターは中小企業の知的財産の創造・保護・活用の促進を目的にさまざまな支援事業を行っております。詳しい事業内容につきましては、本誌P.14をご参照ください。

企業名：株式会社アベイルス

代表取締役：酒井三枝子

資本金：45,000万円

従業員：45名

本社所在地：千代田区六番町7-4 シグマ六番町ビル

T E L：03-3265-3414 FAX：03-3265-8840

U R L：http://www.availvs.co.jp